

令和元年度第1回生野区区政会議 こどもの未来部会

1 開催日時

令和元年5月30日（木） 19時03分～20時30分

2 開催場所

生野区役所 5階 502・503会議室

3 出席者

（区政会議委員）9名

岩井委員、松田委員、新井委員、高岡委員、米川委員、林委員、伊藤委員、村上委員、清水委員

（その他関係者）2名

緒方区PTA、鈴木区PTA

（生野区役所）12名

山口生野区長、櫻井副区長、山崎地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、橋本企画総務課長、井平安心まちづくり担当課長、山戸地域福祉推進担当課長兼政策推進担当課長、山口保健福祉課長、清水区政推進担当課長、樋口教育委員会事務局総務部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長、大川教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、杉本企画総務課長代理、森企画総務課長代理

4 委員に意見を求めた事項

（1）平成30年度生野区の取り組みの振り返りについて

資料1 平成30年度の生野区の取り組み振り返りについて

：こどもの未来部会用抜粋分

参考資料1 事前にいただいたご意見と区の考え方 ※当日配付

（2）その他

参考資料2 前年度の部会でいただいたご意見・ご提言（要約）と区の考え方、対応 ※当日配付

参考資料3 前年度の全体会でいただいたご意見・ご提言（要約）と区の考え方、対応 ※当日配付

5 会議内容

○松田副部会長

皆さん、こんばんは。岩井部会長が遅れるということで、私、副部

会長の松田です。どうぞよろしくお願ひいたします。

ただいまから、令和元年度第1回こどもの未来部会を開催いたします。区政会議は地域でまちづくり活動を実際に進めている私たちが、区役所と一緒にあって意見を述べる場となっております。部会で出された意見は全体会議において報告し、共有することとなります。その中で、この部会は生野区の子ども子育ての分野について、有効で活発な議論が行われるように意見交換を進めていきますので、皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは開催に当たりまして、山口区長からご挨拶をお願ひいたします。

○山口生野区長

皆様、こんばんは。お忙しい中、また夜にお集まりいただき、誠にありがとうございます。この部会は、昨年度の生野区の取り組みに対しまして、またご意見をいただく場となっております。前回は全体会をしまして、それは今年度新しくやることについてのいろいろご議論をいただいたんですけども、まず振り返りで達成できていないこと、できたこと、そういったことに関しまして、ご意見をいただきながら、また新たな課題というのも日々生まれています。子どもの安全に関する事故や事件が続いている中、また入管法が変わりまして、外国の子どもが大変増えている中学校があるでありますとか、状況も変わりつつありますので、そういったこともまた各地域、各学校で見聞きされていることも合わせて情報交換も含め、意見交換をしていただければ幸いです。今日はどうぞよろしくお願ひいたします。

○松田副部会長

ありがとうございます。

それでは議事に入るにあたりまして、これからは学識の委員であります大阪市立大学の清水委員に会議の進行等をお願ひしたいと思ひます。清水委員、どうぞよろしくお願ひいたします。

○清水委員

部会長からご指名いただきました、大阪市立大学の清水です。これから会議の進行をさせていただきますので、皆様よろしくお願ひいたします。

それでは、お手元の会議次第に沿いまして、議事の1、平成30年度生野区の取り組みの振り返りについて、区役所からご説明を願ひます。

○清水区政推進担当課長

区政推進担当課長の清水です。よろしくお願ひいたします。

それでは、平成30年度の生野区の取り組み、振り返りについてご説明いたします。

お手元の資料1とあるA4横のパワーポイントの資料をご覧ください。1枚めくっていただきまして、目次がございます。この目次の項

目に沿いまして、それぞれ担当課長よりご説明いたします。

次の3ページに、この部会にかかわる平成30年度の生野区の取り組み全般が記載されています。子育て支援、未来を生き抜く力の育成としての次世代の学校づくり、そして生野のまちとしての教育力など、次世代を担う生野区の子どもたちをしっかりと支援していくためのとても重要な分野となっております。

それでは、これから項目ごとに担当課長からの説明に入ります。説明の都合上、資料が前後することがありますが、あらかじめご了承をお願いいたします。

○山戸地域福祉推進担当課長兼地域まちづくり課政策推進担当課長

いつもお世話になっております、地域福祉推進担当課長兼政策推進担当課長の山戸でございます。私から、平成30年度の主な具体的取り組み、(1)子育てが楽しくなるまちづくりについて、着座にて説明させていただきます。

4ページをご覧ください。取り組み実績といたしまして、まず子育て応援イベント、いくのっ子広場でございますが、この事業は子育ての孤立を防ぐため、保護者をサポートしようと活動している施設や団体、民生委員、主任児童委員さんと協働し、昨年度は3回のイベントを企画いたしました。7月28日は、残念ながら台風のため中止となりました。11月8日は、生野区役所で親子エアロビクスや紙芝居、楽器で遊ぼう、いくみんな健康体操などのほか、バルーンアートや缶バッジ、子どもの手形、足形キーホルダー、手づくりおもちゃ、ハンドアロマオイルケアなどのコーナーのほか、血管年齢、乳がんチェックのコーナーもあり、378名の参加がございました。3月24日も、生野区役所におきましてパターゴルフをメインに、的あて、輪投げ、ガチメンなどのゲームコーナーのほか、バルーンアートや楽器づくり、缶バッジなどのコーナーなどを設け、176名の方にご参加いただきました。

次の5ページをご覧ください。子育てに関する効果的な情報提供でございますが、一昨年11月に開設いたしました子ども子育てプラザの子育て情報サイト“いくのde育～の”を活用して、地域子育て支援情報などを発信しております。平成31年3月末のアクセス数は、9,191件でございました。また、区長によるいくみんな子育て通信も毎月発行しており、区内子育て支援施設をはじめ、小児科病院等にも配布にご協力いただいております。より情報発信を強化し、引き続き取り組みを進めてまいります。

次の6ページをご覧ください。生きるチカラを育む絵本プロジェクトでございますが、生野区では平成29年度より、3カ月児検診時にブックスタート事業を併設するとともに、絵本サポーターが絵本の読み聞かせを行っております。平成30年9月からは、1歳6カ月児健診時においても、絵本サポーターによる絵本の読み聞かせを開始いたしま

した。絵本の読み聞かせ体験を通じて、家庭内での読み聞かせを根づかせ、豊かな親子関係を構築するとともに、文字への親しみ、読書習慣の定着、知識、学力の向上など、夢や希望にあふれた子どもの育成を目指します。また9月22日の土曜日には、一昨年引き続き、絵本イベントを開催いたしました。絵本作家によるライブをはじめ、遊び、歌ライブ、500冊の絵本展の読み聞かせなどの楽しい催しで、雨模様にもかかわらず673名の来場がございました。

次の7ページをご覧ください。30年度業績目標は二つございます。一つ目の子育て応援イベントに参加した養育者について、イベントの内容が楽しかったなど肯定的に感じた割合は94%で、目標の80%以上を達成しており、参加者アンケートでは来年もぜひ参加したいというようなご意見をいただいております。また二つ目の生野区子育て情報サイト“いくのde育～の”のアクセス数は年間9,191件で、目標の6,000件以上を達成しております。今後も引き続き、子育て支援関係機関等と連携、協力し、子育てがより楽しくなるよう取り組みを進めるとともに、生野のまちで子育てしたくなるような楽しい情報を発信してまいります。

私からの報告は、以上でございます。

○山崎地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

皆さん、こんばんは。地域活性化担当課長の山崎です。私のほうから8ページからの(2)次世代の学校づくり(学校配置の見直し)から順次説明させていただきます。着座して説明させていただきます。

まずは8ページの生野区西部地域学校再編整備計画の推進について、ご説明させていただきます。学校再編の進め方としましては、資料のほうに記載させていただいておりますけれども、右端に小さく書いております、議論のたたき台となります学校整備計画(素案)というものを行政のほうで作成させていただきまして、それをたたき台としまして地域でありましたり、保護者の方にもいろいろご意見をいただく場としまして、学校設置協議会準備会というものを立ち上げるということにしております。その後、いただいたご意見を踏まえまして素案を修正しまして、学校整備計画案というものを作成させていただき、その後、説明会を開催させていただいた上で、地域の方、保護者の方、いろいろな方に学校再編に関するご理解でありましたり、ご協力を得られる状況になりましたら、次に学校設置協議会というものを設置しまして、開校時期でありましたり、校名などの詳細事項をご協議いただくという進め方にしております。

次の9ページをご覧ください。平成30年度でございますけれども、4つの中学校区における学校設置協議会の設置を目指しまして取り組んできたところでございます。取り組み実績ということで記載させて

いただいておりますけれども、まず生野中学校区におきましては、学校設置協議会準備会のほうを一昨年12月に設置しまして、それ以降7回開催しまして、いただいたご意見も踏まえまして整備計画案というものを作成し説明会も経まして、昨年の11月末に学校設置協議会ということで設置させていただいております。この学校設置協議会ですけれども、今年度も含めまして、これまで5回開催しております、昨年の11月末には新しい学校の2022年4月の開校、それから小学校と中学校が一つとなった義務教育学校の設置を目指すことをご確認いただいたところでございます。この生野中学校区につきましては4つの小学校区がございます。現時点ではこの協議会のほうにご参加いただいているのは二つの地域ということになってございます。ご参加いただけない校区のPTAでありましたり、まちづくり協議会のほうに引き続き、ご説明をお願い申し上げまして、ご参加いただけるように取り組んでまいりたいと考えております。

次に田島中学校区についてでございます。こちらのほうは将来の学校を考える会ということで準備会を一昨年の12月以降、8回開催しまして、いろいろご意見をいただいていたところでございます。いただいたご意見も踏まえまして、昨年9月に整備計画案を策定し、また同じく9月22日、28日の二日にわたりまして、学校整備計画案の説明会ということで開催させていただいたところでございます。しかしながら、現時点では学校設置協議会の設置ということには至っておりません。引き続き各小中学校のPTAでありましたり、まちづくり協議会にご説明をお願い申し上げまして、早期の学校設置協議会の設置に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

次に大池中学校区でございます。大池中学校区におきましては舍利寺小学校区が大池中学校と生野中学校に分かれるということから、両中学校の開校時期を合わせるべく検討を進めてまいったところでございます。しかしながら、児童数の少ない学校の課題解決を優先的に進めるべきではないかといったご意見もたくさんいただいたところでございます。このご意見も踏まえまして、まず御幸森小学校と中川小学校の再編に取り組み、その後、舍利寺小学校も合わせました再編を行うという段階的な学校再編ということで御幸森校区、それから中川校区のほうにご提案させていただき、本年3月に御幸森小学校、中川小学校の学校設置協議会を立ち上げたところでございます。今後この協議会の場におきまして、開校時期でありましたり、通学路の安全対策などの詳細事項について保護者でありましたり、地域でありましたり、ご意見をお聞きしながら議論を進めてまいりたいと考えております。

最後に桃谷中学校区でございます。こちらのほうは、まず中学校の再編に取り組むという方針のもと、中学校の学校設置協議会ということで立ち上げさせていただきまして、本年4月に新しい学校として桃

谷中学校が開校したところでございます。まだスタートを切ったばかりで、当初想定されていない課題というの今後出てくるかもしれません。引き続き、学校のフォローアップということで区役所として努めてまいりたいと考えております。また小学校の再編についてに向けましても、今後PTAでありましたり、まちづくり協議会の皆さんと相談しながら、早期に学校設置協議会準備会の立ち上げに向けて取り組んでまいりたいと考えております。

次の10ページをご覧くださいと思います。先ほどもご説明させていただいたように、田島中学校区では学校設置協議会の設置ということ達成しておりますので、業績目標としましては3中学校区での設置となっております。引き続き保護者、地域の方へ丁寧な説明、意見交換を重ねながら、学校設置協議会の参加でありましたり、立ち上げに向けて取り組んでまいりたいと考えております。

次の11ページをご覧ください。要因分析と課題、それから今年度の方向性ということで書かせていただいております。先ほどご説明させていただきましたように、田島中学校区につきまして、学校設置協議会がまだ設置できていない状況でございます。それから生野中学校区に関しましては、まだ参加いただけていない地域もあるということでございます。特に再編のメリットを感じられる学校の魅力化ということで取り組んでいかななくてはいけないのかなと思っております。やはり学校を再編することによって場所が遠くなるという話でありましたり、学校がなくなることによって地域がさみしくなってしまうのではないかという不安の声もたくさんいただいております。そういった不安のほうも丁寧にご説明させていただきながら払拭して、地域の皆さんと合意形成を重ねていきたいと考えております。

続きまして、12ページをご覧ください。こちらは次世代の学校づくりということで、「生野の教育」の実現ということで4つの事業を以下に挙げさせていただいております。

まず12ページの学び支援事業について説明させていただきます。こちらのほうは小学生の学力の向上ということを目指しまして、お子さんの学力状況の把握でありましたり、また自主学習習慣の確立ということを目指しまして、外部試験の受検を学校のほうで活用できる機会を提供するというところで実施させていただいております。平成30年度につきましては16小学校で実施いただいたところです。

次の13ページをご覧ください。業績目標としましては、学習意欲を問う設問に対して肯定的な回答をする児童の割合ということで70%になるように目標を設定していたところでございますけれども、実績としまして67%ということで、目標を未達成ということになってございます。やはり子どもたちのやる気を引き出すという部分に関して、もっと工夫していく必要があるのではないかと考えております。一方で、

学校のほうからは外部試験を受けさせるということによって、お子さんにとってもふだんの試験とは違う緊張感を味わうことができるし、その後の学習意欲にもつながるのではないかというご意見もいただいております。今まで一学年分の予算ということで確保して実施していたところですが、平成31年度に向けまして経年で変化をみられる、また来年もこのテストを受けられるということによって、意欲も高まるのではないかと考えております。今年度の予算につきましては、2学年が受けられるように増額して、本事業を実施しているところでございます。

次に14ページをご覧ください。こちらは生きるチカラを育む課外授業ということで書かせていただいております。こちらの授業は民間事業者の力も借りまして、課外授業を行うとともに子どもたちに年齢の近い講師による悩み相談ということも合わせて実施することによりまして、自分もこんな大人になりたい、頑張れば自分も成長できるという気持ちを醸成してもらい、目標に向かってみずから学ぶ力の定着を図っていくということを実践しております。平成30年度につきましては、大池中学校におきまして、大池みらい塾として実施しております。受講者数につきましては、資料に記載のとおり34名の方に受講いただいたということになってございます。ページをおめくりいただきまして15ページをご覧ください。30年度の目標としましては、事業実施前後にアンケートを行いまして、家庭学習を全くしないといった者を半減させるという目標を立てていたところでございます。当初事業実施前につきましては2名全くしていないというお答えをいただいたところですが、事業実施後は0名になったということで目標は達成している状況になってございます。また参加者アンケートも取らせていただいておりますけれども、講師に気軽に話せて楽しいといった声もいただいております。悩み相談を通じまして相談のしやすさにつながり、学習意欲の向上にもつながっているのではないかと認識しております。今年度の方向性でございますけれども、30年度実施しておりました大池中学校のほかに東生野中学校、それから田島中学校、新生野中学校も加えて計4校で取り組みを進めていくこととしております。大池中学校と東生野中学校につきましては、既に5月に開講しております。田島中学校、新生野中学校については、現在、事業者選定の手続きを行っているところでございます。8月の開講に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

次に資料16ページをご覧ください。こちらは生きるチカラまなびサポート事業となっております。こちらの事業ですけれども、こちらは平成30年度、昨年度から新たに実施しているものでございまして、子どもたちが命の大切さでありましたり、自分の将来像などを考えるきっかけづくりを通じまして、自尊感情やみずから頑張る力を身につ

けることを狙いまして、各学校で行いますキャリア教育、それから性・生教育を支援する生きるチカラまなびサポーターの登録制度を構築し、学校の要請に応じて講師となるサポーターを派遣するという事業になってございます。平成30年度につきましては、小中学校での授業や教職員向けの研修への講師派遣ということで15回派遣させていただくとともに、保護者や教職員向けのシンポジウム、研修会も2回実施したところでございます。下のほうに写真を入れさせていただいております。左側が赤ちゃんとふれあう授業ということで、小学校、中学校のほうに実際に赤ちゃんに来ていただいて触れ合っていた中で、子育てのこの話も聞いてもらえますし、赤ちゃんってこんなに尊いんだという命の大切さなども味わっていただくという取り組みを行っております。また右側ですけれども、今年の夏に保護者、教職員向けのシンポジウムということで、スマホに関してシンポジウムをさせていただきました。来場いただいた方に、今若い子どもたちがスマホを使っているという状況の中で、いろいろ危険な場面にも遭遇しているという実態がございまして。そのような実態を高校生の子、大学生の子にも発表していただきながら話を聞いていただきました。保護者の方も教職員の方も、今そんなに進んでいるのかと、怖いなということをあらためて認識していただいたようなことになってございます。

次、17ページをご覧ください。こちらのほうですけれども、事業終了時のアンケートで人の役に立つ人間になりたいと思うかということで、否定的な回答をする受講者の割合ということで3.4%ということで目標の8%未満を達成しております。受講いただいた方の意見としていろいろな書かせていただいております。赤ちゃんとふれあいを通じて、一人一人個性があって、一人一人大切な命を持っているんだなという思いをいただくなり、いろいろ感じ取っていただいているところでございます。こちらの事業、まだまだ学校への派遣回数ということで少ないなと感じております。今年度の方向性ということで、登録講師も増やしながら、学校でより活用いただけるような形で取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして、18ページをご覧ください。こちらのほうは中学校を会場としまして、先ほども申し上げた課外授業ということで行います。先ほどの事業との違いということで申しますと、相談というところがついてないというものになってございます。こちらの課外授業、いくの塾という名称でやっております。平成30年度につきましては、生野中学校、巽中学校、それから東生野中学校の3カ所で実施していただくところでございます。

次の19ページをご覧ください。こちらの中で業績目標として、授業の中でわからないことを放置しているという生徒を半減させるという目標を立てておりました。事業実施前に取りましたときに、2名ほど

そのままにしておくという回答があったところですが、その2名を減らすことができずに目標を未達成ということになってございます。生徒がみずから質問したり学習したりする姿勢の定着に向けて、いろいろ工夫をして取り組んでいく必要があるかと考えております。また受講者数のほうも、先ほど申し上げたように3つの会場で42名ということで、こちらは会場によってもばらつきがあるんですけれども、まだまだ受講者数が足りていないなど考えております。より多くの方に受講いただけるように、周知活動を伝えてまいりたいと考えております。

続きまして、資料の20ページをご覧ください。こちらのほうから次世代の学校づくりということで、学校教育コミュニティの支援ということで事業を記載させていただいております。

まず1点目、小中学校交流かけはし事業でございます。こちらのほうはお子さんが中学校に移るに当たりまして、中学校生活を楽しく過ごすためにスムーズな移行ができるよう区のほうでも支援を行いまして、小中連携の取り組み、それから同じ中学校区の小学校同士の交流を図るということで事業を実施させていただいております。30年度の実績としましては、小中学校の交流としまして9中学校区で8校が実施ということで書かせていただいております。勝山中学校と鶴橋中学校、こちらが今年の春に一つの学校になったということで、実施したのは勝山中学校でやったことになるんですけれども、校区の4小学校が交流するというところで実施しているところでございます。また年間を通した交流ということで、東生野中学校区の東中川小学校、それから小路小学校の2校のお子さんが一緒になって英語を年間を通じて5回学ぶという取り組みをさせていただきました。また、中学校区の小学校同士の交流ということで、生野中学校区になりますけれども、生野中学校区の4つの小学校のお子さんが交流するという場、イングリッシュデイという形で2回ほど取り組みをさせていただいたところでございます。

次の21ページのほうに業績目標ということで書かせていただいております。目標は交流できてよかったと感じる割合が93%ということで、目標の80%を達成しております。実際に参加いただいたお子さんからも、楽しみにしていたという声でありましたり、事前に中学校の様子を知れてよかったという声もいただいているところでございます。引き続き、各中学校区での取り組みを支援していくとともに、今後は小中交流にとどまらず、小学校同士の交流というのも早い段階の学年から継続的に実施できるような取り組みもいろいろ進めてまいりたいと考えております。

続きまして、22ページをご覧ください。こちらは学校支援ボランティア人材バンクということで、区内の市立小中学校におきまして、例

えば児童生徒の見守りでありましたり、授業もしくは校外学習等の支援などを行うボランティアを募集しまして登録する。そして、必要としている学校に情報を提供しまして、ボランティア活動を実施していただくというものになってございます。昨年度は年2回ボランティアの募集ということとさせていただきますまして、登録されたボランティア情報を各小学校、中学校のほうに、このような方がボランティア登録されているよという情報を毎月提供させていただくという取り組みをさせていただきます。

次の23ページをご覧ください。業績目標としておりましたのは、実際にボランティア登録いただきまして、学校で活動していただくボランティアの数、年間17名以上の方にボランティア活動をしていただくということを目標としておりました。実績としまして11名ということとで目標未達成ということになっております。なかなか登録されているボランティアさんの希望する曜日でありましたり、場所等実際にボランティアに来てほしいという学校のマッチングというところがなかなかうまくいかなかったというところが一つの要因になっております。今年度の方向性として、よりマッチングを図っていくということで、区役所のほうでもいろいろ取り組みを進めてまいりたいと考えています。ボランティアの数を増やすのもそうですし、学校のニーズを事前にいろいろお聞かせいただくということも進めてまいりたいと考えております。

続きまして、24ページをご覧ください。(5)「ニア・イズ・ベター」に基づく分権型教育行政の効果的な推進ということでございます。大阪市におきましては、地域でありましたり学校でありましたり、それぞれの特色ある教育づくりを目指すという方針のもと、学校に近い、地域に近い区長を区担当教育次長として位置づけまして、いろいろ学校の支援を行うという取り組みを進めているところでございます。そのためにも、例えば教育行政連絡会というものでございまして、教育保育連絡会というものがございまして、学校長のニーズなんかもいろいろ聞く場をたくさん設ける、それから各学校のほうが実施している活動をいろいろ情報発信する支援を行うというような取り組みを行っているところでございます。

次の25ページをご覧ください。30年度の業績目標として書かれております。まず上のほうに書かれております学校の実情に応じた教育が行われ、教育内容が充実していると感じているという割合に関しまして、小中学校の校長先生がより充実したと感じているという目標の数字としまして30%掲げておりましたけれども、96%の方からより充実したという回答をいただいております。また、それぞれの学校に学校協議会というものが設置されておまして、その委員の皆様にもアンケートを取らせていただいておりますけれども、83%の方がより充実

したとご回答いただいているところでございます。一方で、学校、地域の実情に応じた教育が行われていると感じるかということで、保護者、区民等の参画のための会議の委員の皆様、この区政会議のこどもの未来部会の皆様でございます。皆様にもアンケートということでご協力いただきましてありがとうございます。実情に応じた教育が行われたと感じるということに関しまして、実績ということで17%の方のお答えしかいただけないということで、目標としては未達成となっております。要因分析と課題、それから方向性でございます。それぞれ地域の学校協議会の委員の皆様の方は、教育内容がより充実しているよというお答えもいただいている中で、区全体の特色ある取り組みが進んでいるというふうに、なかなか我々のほうがお届けできていないというところが一番の大きな課題と考えております。発信内容の精査も含めまして、より効果的な周知ということで情報発信してまいりますと考えております。

私からの説明は以上でございます。

○井平安心まちづくり担当課長

皆さん、こんばんは。安心まちづくり担当課長の井平でございます。どうぞよろしく願いいたします。私から資料26ページ、まちの教育力を上げる取り組みについて説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

取り組み内容といたしましては、生涯学習の推進でございます。昨年度、区内全19小学校において生涯学習ルームを開設し、区民の生涯学習活動を支援するとともに生涯学習推進員連絡会を開催し、生涯学習推進員と連携を図ってまいりました。また各校区の生涯学習ルームの活動を発表する場として、区生涯学習ルームフェスティバルをリゲッタIKUNOホールで開催を行いました。次ページに記載しています業績目標といたしましては、各事業の参加者にアンケートを行い、区の生涯学習で学んだ内容を地域行事等に生かせる機会があるという問いに対し、60.2%の方からあるとの回答を得ておりまして、目標を達成しているところでございます。引き続き、生涯学習推進員と連携し、生涯学習活動の活性化に取り組んでまいります。

以上でございます。

○清水区政推進担当課長

各担当からのご説明は以上でございます。これまで各取り組みと目標達成状況について説明させていただきましたが、28ページに全体の目標達成状況の一覧を掲載しております。これらを踏まえました総括といたしまして、次の29ページの3点でございます。

さまざまな子育て支援の取り組みについて参加者から好評を得ることから、さらに多くの方が参加できるように、引き続き効果的な情報発信に取り組んでまいります。その上で、区民が安心して子ども

を産み育てることができる環境や相談支援体制の整備を進め、より子育てしやすいまちづくりを進めてまいります。

次世代の学校づくり（生野の教育）の取り組みについて、一定の成果はあるものの、学習意欲の向上や、特色ある学校づくりの情報発信に引き続き取り組んでまいります。

次世代の学校づくり（学校配置の見直し）について、魅力ある新たな学校の姿や地域の活性化につながる学校跡地を核としたまちづくりを提案しつつ、子どもたちの教育環境の改善を最優先に、保護者・地域住民に丁寧な説明と意見交換を重ね、合意形成に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。

以上が区役所からの説明でございます。委員の皆様には、どうぞ活発な意見交換のほど、よろしくお願いいたします。

○清水委員

ありがとうございます。ただいまの説明について、委員の皆様、何かご意見やご質問などございませんでしょうか。なお発言いただく際には挙手の上、お名前を述べていただけますようご協力をお願いいたします。たくさん報告がありましたので、どこからというところなんですけれども。説明をお聞きした上での意見というか感想でも結構ですので、何か一言でもいただければよろしいんですけれども、いかがでしょうか。もし余りご意見がないようでしたら、ちょっと順番にご意見をお聞きしたいなと思うんですけれども。もうちょっと待ちますか。

○岩井部会長

新井さん、何かないか。発言ないか。

○新井委員

ご指名がありましたので、意見をさせていただきます。多分、このこどもの未来部会なんですけれども、学校再編のことがたくさん話し合われたので、実績、目標達成とかという部分では余りいいような結果は出なかったと思うんですけれども、すぐに結果が出るような内容のものでもないし。本当に思うんですけれど、毎回同じようなことが繰り返されていて、また説明、また説明、また説明みたいなことを繰り返しているような気がして、一向に前に進んでいないという現状があって、その中で今学校を見ていると荒れてきている学校もありますので、学校再編のことは難しいとは思いますが、私は子どもたちによりよい教育を受けさせてあげたいという気持ちで、そこはぶれずにやっていきたいと思っています。

○岩井部会長

荒れている学校、そない元気な学校はあるわけ。あんたの学校、元気でええのちゃうかな。

○新井委員

こういったところで話をするのはどうなのかとは思いますが、学級崩壊とか学校ごとにこの学年が荒れているとか、結構そういうことをたくさんお聞きするので、まず再編も大切なんですけども、でもその中で子どもたちが荒れてくるというのは何か原因があると思うので、子どもたちをもっとしっかり見ていかななくてはいけないなど、PTAの立場からそういうところは責任も感じますし。

○岩井部会長

けれども、先生も少ししんどいような時代だから、PTAのほうもしっかりして、フォローするというところでやっていかななくては、しんどいと違うかな。どないでっか。

○新井委員

PTAは学校のサポートだと思っているので、しっかり先生も見ながら子どもたちも見ながら、PTAはしっかり動いていかなあかなとはいつも自負しております。

○岩井部会長

先生にも少し叱咤激励して、もっとやれと言わな、しゃあないな。

○新井委員

そうですね。それ以上に子どもたちも少し元気になってきているので、今大人が子どもを怒れなくなってきている現状がすごくあるので、家庭で教えなくてはいけないことと学校で教えなくてはいけないことの区別が少しついていないような気がするので、家庭で教えなくてはいけないことは家庭でとは思いますが。

○岩井部会長

それが全く正解やな。

○清水委員

学校の様子にご意見いただいたんですけども、本日PTAの方からもご参加いただいているので、もし今、区役所からご説明いただいた内容と実際の教育現場、お子さんたちを見ていらっしゃる立場として、ちょっとギャップもあるかもしれないですけども、この振り返りの内容についてのご意見などありましたら、ご意見、ご感想でもいただけたらうれしいんですけども、いかがでしょうか。

○緒方区PTA副会長

緒方です。よろしくお願ひします。再編についてとかは地域によって温度差がすごく、保護者の中で結構出ていると思うんです。私もどちらかっていうと新校の中学校なので、どちらかというともまだそちらのほうにかかっていないほうなので、全く知らない保護者の方もいらっしゃるって、私も実際こうやって入ってみて話を聞いて、そこまで話が進んでいるのかというのが去年ぐらいに知ったんです。それぐらい温度差がすごくあるので、もっともっと話を聞く場が増えていくよう

に。そうしないと理解できる、できないよりも以前に知らないお父さん、お母さんがたくさんいらっしゃると思います。

○清水委員

ありがとうございました。情報の格差があるという現状を聞かせていただきました。ありがとうございます。

○岩井部会長

あなたが言うように、知らない人もたくさんいてはるの。

○緒方区PTA副会長

たくさんいらっしゃると思います。

○岩井部会長

なるほどね。

○緒方区PTA副会長

かかわっておられる方とかかわっておられない方によっては、全然お話の内容も変わってくるので、もっと勉強しなければと思います。

○岩井部会長

ありがとうございます。伊藤さん、何か言うてください。

○伊藤委員

伊藤です。学校再編のことはちょっと置いときまして、この中で私が気になったのが、授業でわからないところはそのままにしておくというところの子どもさんがたくさんいらっしゃるというぐあいに、それが改善されていないということは、どこでつまづいているのかという本人もわからない。そういう人たちが、例えばいくの塾ですか、そういうところに行っても、先生方がどこまで子どもたちに踏み込んでくれているのかなというのを感じるんです。授業中無理な話かもしれませんが、そういう授業が終わったときにぱっと対応できるようなシステム、例えば人材バンクがありますよね。そういうところで教育資格を持った方とか、あるいはそういう大学に通っておられる方々にちょっと見ていただけたら、また違うのかな。少しの「できた」があれば、子どもたちの意欲はすごく変わってくると思うんです。だからそういうことも人材バンクのところでも、学校が何を求めているのかというのが本当にリサーチできているのかなという感じがするんです。これは余談になるかもしれませんが、今、小学校の図書館はどうなっているのかないつも思うんです。担任の先生が行って、はい、今から図書館です、鍵を開けて、はい、終わりますと、こういう状態では子どもたちというのはものを読み取る力というものが弱くなっていく。授業ではそこまで追いつかないと思いますので、人材バンクも含めて地域にいらっしゃる有資格者、司書の方がいらっしゃったら、そういう方々に来ていただいて、図書館はいつも開いているよという形にさせていただいたら、子どもたちが自分の興味あることでしたらどんどん進んでいきますので、そういうことを少し考えてい

ただけたらありがたいなと思います。

○清水委員

ありがとうございました。ほかに、いかがでしょうか。

○岩井部会長

村上さん、何か言うて。

○村上委員

ご指名ですので。まず学校再編のところで、10ページで目標が4校区、実績が3校区で目標未達成とありますけれども、これで目標未達成というのは何か違和感があるんです。誰のための目標達成なのかというのがちょっと思うところがあるのですが、それと全般的に目標を掲げて何%以上と掲げるのはいいんですけれども、ものによっては70%、80%、25ページの30年度の業績目標ですか、小中学校の校長が30%で実績が96%、学校協議会の委員さんが30%、実績83%、それぞれの数字の目標の初めの設定値の設定の仕方はどうなんというような感じがするんです。どういうふうな根拠に基づいて、それぞれの目標の設定の数字を出されているのかというのを、ちょっといろいろ疑問に感じることもあるんです。以上です。

○岩井部会長

全く、ええ質問や。

○清水委員

この点については、説明をいただいてもよろしいでしょうか。

○山崎地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

ありがとうございます。目標設定の数字なんですけれども、それぞれの事業を継続してやっているようなものでありましたら前年度の目標を見ながら、またさらに上になるような形で目標設定をさせていただいているようなところがあるんですけれども、今ご指摘いただきました25ページのところが今年度から立てられた目標になっていまして、大阪市全体で一旦統一的にこの目標でやっていきましょうよということで設定させてもらったものになっています。この目標でそれぞれの区で取り組みを行うという形でやっておりまして、生野区は少し数字がよかったところもあるし悪かったところもあるということで、この数字に基づきまして、当然よかったところに関してはまたさらなる目標という形で考えていきたいなと考えているところです。

○岩井部会長

全然、わからへん。以上やな。

○山崎地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

はい。

○清水委員

ほかに、いかがでしょうか。

○岩井部会長

米川さん、何かちょっと一言、言うことあらへんか。

○米川委員

米川です。先ほど学校が荒れているということをお聞きしたんですけれども、うちも54年生まれの息子がいてるときに通っていた中学校もかなり荒れていました。私たちがPTAに全員こぞって学校に毎日交代で行こうと、みんなを見守っていこうという形で3年間やったんです。そしたらやっぱり子どもたちも挨拶もできるようになりましたし、何か、すごくいい感じになりました。保護者が見守っていますよという形に持っていったら、子どもの荒れているのもちょっと落ちつくのではないかと経験上で思いました。以上です。

○清水委員

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。

○岩井部会長

高岡さん、何か言いたそうやね。

○高岡委員

高岡でございます。前回も18ページの次世代の学校づくりという、生野の教育の中で課外授業、生野中学校の参加人数が少なかつたみたいに思いましたので、今日、生野中学校と巽中学校と東生野中学校の晩の時間を見ていましたら、生野中学校だけ6時半から終わる時間はそんなに変わらないですけれども、少し早いように思いまして、そういう課外授業に来られる方、偏見でだめですけれどもお母さんもお仕事をされていて、夕食とか時間が、家にいるお母さんよりも用意が遅いのではないかと思います、子どもたちの夕食の時間が取れないような感じで生野中学校だったら参加しないといけないかなと思って、今これを見ていましてそういうふうに感じました。時間の割り当てはどういうふうになっているのでしょうか。それをお聞かせください。

○山崎地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

ありがとうございます。こちらの資料に書かれている18ページのところに関しましては、昨年度の日時という形になっております。我々としましても特に思っていたのが、土曜日の晩に出てきてくださいというのは子どもはなかなか来づらいだろうなという形で思っておりました。当初学校とも相談して平日は部活動の関係もあって、なかなか難しいかなというお話でいただいていた、ずっと土曜日で続けていたんですけれども、学校の先生ともいろいろ相談させていただきお願いさせてもらって、今年度は火曜日と金曜日ということで生野中学校は変えたりはさせていただいております。この形で何とかお子さんに参

加いただける方の数は増やしていきたいなと思っております。それから時間のほうは18時30分から20時40分ということでこれは書いております。今年度に関しましては18時30分から20時55分という形で、少し時間が長くなっているんですけども、巽中学校とか東生野中学校で書いているように二つのコマを設けまして、どちらに来てもいいよというやり方にしておりますので、例えば部活動でおなかがすくという方だったら後ろの時間帯にも来れるような形で参加しやすいような形で取り組んでおります。

○清水委員

昨年度の実績を踏まえての今年度新しく時間を変えられたというご説明だと思います。ほかにいかがでしょうか。

○岩井部会長

区PTAの鈴木さん、ないでしょうか。

○鈴木区PTA副会長

こんばんは。区PTAの鈴木です。少し話が元に戻るんですけども、ここのところ毎日、テレビを騒がせている川崎市登戸の殺傷事件のことがありましたし、再編のことなんですけど、私は生野中学校のPTAですので、先ほど平成30年の11月に中学校区学校設置協議会が設置されましたということでした。けれども不参加の地域があるということで、今問題になっている殺傷事件もそうですけれども、学校というのは地域とは切っても切れない関係だと思うんです。登戸の地域の方々も見守り隊を頑張らせてさされていたみたいですけども、それにもかかわらずああいう事件が起こったということですので、やっぱり地域と学校は離すことができないのに、不参加の地域があるというのはとても残念なことだと思うんです。これからこの不参加の地域に対してどういうふうに働きかけていく予定にされているのかをちょっとお伺いしたいと思うんですけども、いかがでしょうか。

○清水委員

説明をお願いします。

○山崎地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

ありがとうございます。今、鈴木委員からもお話がありましたように、我々としても学校と地域は学校教育の中でも地域の皆さんに支えられている部分はすごくたくさんございます。皆さんの参加いただけるように取り組んでいかないといけないと思っております。今参加いただけていない地域も反対されているというわけじゃなくて、不安なところが通学距離が長くなるという話もそうですし、学校の場所が学校ではなくなると、そこがさびれていくんじゃないかという不安なところはあると思います。そこに対して具体的にいろいろご相談しながら、解決策を一緒に考えていくというような形で話をしていきたいな

と思っております。本当に丁寧にやっていくというのが一番だと思えますし、この間、行政の対応がまずかったという部分も絶対あると思っております。その部分もあらためて、いろいろ丁寧にお話もさせていただけたらなと思っております。

○清水委員

ご説明いただきましたが、反対という表明ではなくて不安ということで、そこが解消されていないので参加していないということでしょうか。

○山口生野区長

少し補足をさせていただきます。まずは今の案であるということに対して、納得しきれていないわけではないというご意見はいただいています。なぜ4小学校を一つなのか、なぜこの学校に一つにするのかといったようなご意見はいただいているところでもあります。それに関しましては、例えば2小学校を一つにした場合、既に2小学校を一つにしても単学級になってしまう学年ができてしまうことでありまして、また数年後にすぐに再編が必要になるような人数でありましてといったような課題、また小中一貫教育をすることによって、とにかく子どもたちに力をつける、いい教育環境をつくるということもずっと打ち出しておりますので、その点をちょっといろいろな形でご説明はさせていただいているところでもあります。まだ参加していただけないことに関して私たちの至らなさというのもあると思っておりますので、個別に、まず特に通学路の問題に関しましては大変不安に思っていることなので、こちらもいわゆる大阪市の教育委員会のルールではない違うルールが適用できないか、区独自のルールが適用できないかということも含めて、地域にもまた話をさせていただきたいと思っておりますので、何とかご理解いただけるように努めているところでもあります。

○清水委員

というご説明をいただきました。ほかにいかがでしょうか。

○岩井部会長

林さん、トリになったんですが、何か一言お願いできますか。

○林委員

林です。私はこの中で気になることが二つあるんですけども、一つは学校再編のことで、どこの校区か忘れたんですけども、自転車での辺を走っているときに、学校再編に反対するようなポスターが貼ってある地域があるんです。文言は忘れちゃったんですけども、「学校をなくすな」か、何かすごく、ドストレートに文字で結構インパクトがあるようなポスターが貼ってある地域があったんですけども、私は東中川地域なので、学校再編の影響のない地域なんですけれども、ああいうのを見ると、この地域はもめているのかなというようなイメージになるので、全然生野の方ではなくても、通りかかった人

がそういういい印象を持たないというのが気になるのと、ああいうポスターはどういった方が貼っているのかということも気になります。あともう一つは、学校が荒れているという話がありましたけれども、この間、中学校の運動会があったんですけれども、うちの中学校はそんなに表立って荒れているという話も聞かないんですけれども、ちょっと気になったのは生野の学校の先生も結構ガラが悪くないですか。女の先生でも子どもたちに巻き舌で言っていたり、先生から、おまえ殺すぞと言われたということも聞くので、ちょっと先生たちも子どもたちを指導したりまとめたりするのに大変なのはわかるんですけれども、先生の質と言ったらあれですけれども、そういう言動もちょっと気になるかなというのが感じました。

○清水委員

厳しいご意見で。学校の現状のことについて、もう少しこの部会の中で計画と実施というところでは余り入っていない部分があるんですけれども、この点、どうでしょう。教育現場で取り組まなければならないことと、区役所の施策としてやらなければいけないところとの区分けがよくわからなくなっているんですけれども、今回は一応区役所として施策を立ててやっているところについての評価なんですけれども、ただそれが実際子育てと学校、保護者の方にとっての思いと離れていては困ると思いますので、そのあたり現状と施策との間をつなぐこれからの何かアイデアというか、そういった検討を区役所としてどういうふうにお考えになっているのか、この場ですぐには言いにくいことかもしれませんが、ご意見をいただけたら皆さんも安心するかなと思いますので、よろしく願いいたします。

○山口生野区長

24ページに、そもそも「ニア・イズ・ベター」に基づく分権型教育行政とすごく難しいことが書いてあるので、これ、何度かご説明させていただいたと思うんですが、区長というのは生野区役所としてのいろいろなここに書かれているご説明した取り組みを推進する、区政を推進する長（ちょう）であるという立場が一つと、もう一つ、生野区内の公立小中学校、幼稚園も一つありますけれども、そこに対しての学校施策の後押しをしたり評価をしたりするという役目があります。ですから、今、学校の先生の言葉遣いが悪いんじゃないかというところに関しては、私のほうから校長先生たちに大丈夫ですかみたいな投げかけをすることができますし、実際に昨年度あったんですけれども、幾つかの小学校が荒れているということで全部小中学校を回って、校長先生とお話もさせていただくんですけれども、1カ所、もう教育委員会も見に行っているんですけども、区長というよりは区担当教育次長として私も見に行って、校長先生のお話を聞いたりだとか地域の方の意見も聞いたり、実際の子どもたちの様子を見たりして助言したり、

また教育委員会と連携して話をする、何かしらの支援をするようなことはしましたので、そういった埋める立場にもありますので、今日いただいたご意見は、また学校のほうにも返せるようにしたいと思っています。

○清水委員

ありがとうございました。ほかに。

新井委員、お願いいたします。

○新井委員

学校が荒れているという発言をしたので、そのことがたくさん歩いていってしまったんですけれども、学校再編のことに關しては、私は区役所から聞きたいこととか説明とかは本当にたくさん、十分過ぎるぐらい聞いています。それを説明する場もたくさんあったし、そこに行く、行かないという人たちというか、情報を取りに行かない人たちが聞いていないとかと言うのは、ちょっと違うのではないかなと思うし、ある意味、もし気になるとか自分たちのことだと思っただったら、その場に行って話を聞くべきだし意見も出してほしいし、そういうところはちょっと無責任ではないのかなと逆に思います。再編で一つになった桃谷中学校なんですけれども、それに携わった方たちの思いというのが、鶴中の閉校式のときの言葉とかもいろいろなものを見せてもらったときに、胸につまるくらい皆さんの思いが詰まっていて感動したんです。1 + 1 = 2 じゃなく 3 にも 4 にもという思いを、私たちはそこをもっと深めていかなければいけないと思うし、本当にやってよかったねと思えるように、歩いていく一步を私たちは助けていかなければいけないと思うし、その中でちょっと反対意見の中に P T A とか保護者の方の意見がないまま進められているということが少し入ったりとかしているんですけれども、じゃあ私たちは保護者じゃないんですか、P T A じゃないんですかというのにすごく憤りを感じます。きちんと賛成なら賛成という言葉も発していますし、一人が反対したら、それがあたかも P T A 全部の総意やみたいな風潮でものを言われるのは、少しどうかなといつも思っています。

話は変わるんですけれども、全体的にプリントを見させていただいて、生涯学習の発表を見に行ったんですけれども、本当に余りにも素晴らしい作品が多くて、帰りに作品を買って帰ったんです。うちにも今飾っているんですけれども、どこで買って来たというぐらいのすごい作品があって、こういうことでフェイスブックにもあげさせてもらったんですけれども、舞台上の上にもいろいろなものを展示するというのがほかの区にはないらしくて、展示されているんですかというご意見をいただいたりして、本当に素晴らしい、いい企画であったなと思います。そういうところにも力を入れていただいているし、学校に行くまでの子どもたちなんですけれども、“いくのde育～の”の活用とい

うことで、アクセス数も9,191件あって、皆さんがその情報を楽しみにして見ているのではないかなという、本当にこれが表れた数じゃないかなと思うし、生きるチカラを育む絵本プロジェクトの中で、わくわくいっぱい、絵本PARKinいくのに参加者も673名、写真とか見させていただいてもたくさん参加されていて、こういうことから子育てって楽しいと思ってくれたらよくなるんじゃないかなと思って、たくさんいろいろなイベントとかも頑張っていて、私はこの目標達成とかという言葉にしてしまうのがもったいないなと逆に思っています。

○清水委員

ありがとうございます。新井委員より成果があったりとかイベント等でも報告された内容よりもすごく充実したものであるという高い評価というご意見だったかと思います。松田委員、いかがでしょうか。

○松田副部長

今言っていて、子育てのいくのっこ広場の実行委員長をさせていただいているんですが、初めて主任児童委員の代表として大阪市の会議に行ったときは、よその区はいろいろなイベントをたくさんしておられる区があって、生野区は主任児童委員も多くて、なかなかまとめることもできなくて、こういうイベントをすることがずっとないだろうと私は思っていたんですけども、5年ほど前から子育て支援室のほうで協力していただいたのがきっかけとなり、こういうふうイベントをして、年3回もしているのとほかの区の方から言っていたけるようになって、協賛とか協力していただく方がすごく増えて、こうやって人数も増えて、多分実家が生野区だということで、小さいお子さんが住んでいる人数はたくさんおられると思うんですね。小学校になった途端によその区に引っ越してしまうというパターンが少し多いように思われるので、手が離れると自分らで暮らしていくとか、小さい間は実家の近くでおじいちゃん、おばあちゃんに見てもらいながら、こうやってたくさんおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に来ていただく方もたくさんいらっしゃいますし、そういう町なかなと思うんですけども、それがもったいないなと思うし、本当に小学生の居場所づくりもそうですし、貧困という名前を出さずに居場所という、言い方も変えて、居場所という名前でこの間、会議でも言っていたんですけども、居場所という形で子どもたちがいる場所をつくってあげて、貧困だけではなくて、別にお金のあるなし関係なしに、みんなが寄れる場所をつくっていただきたいなと思います。そして今までもずっといくのっこ広場のことも絵本展等もいろいろ区役所のほうから、私たち児童委員に相談をしていただきまして、たくさんこういうイベントができたことにすごく感謝しています。これからも発信はしていきたいと思っておりますので、またこれからも皆さんのご協力

を得たいと思います。本当にありがとうございました。

○清水委員

実際にかかわっておられた松田委員からの言葉でした。いかがでしょうか、そろそろご意見も出尽くしましたでしょうか。

○新井委員

一つ、推進していただきたいことがあるんですけども、今、大池中学校のほうなんですけれども、いろいろな国の子どもたちが来て、日本語が全く話せないんです。その子どもたちが一旦学校に来て、そこからまた言葉を習いに行ったりとかするんですけども、生野区長が推進されている「やさしい日本語話します」。これをもっともっと推進して広げていって、それを理解していってくれたら、子どもたち救われる子がいっぱいいるんです。私が「もうチャイムが鳴るから、早く走りや」という言葉がわからないということが、今見守りをしていて、この子、話せなかったんやとかいっぱいあるんです。そういうことが子どもたちの中にも起こっているので、みんなが横のつながりを持って、やさしい日本語を推進していただけたら、いろいろな国の子どもたちも助けられるんじゃないかなと思います。

○清水委員

ありがとうございました。昨年度の振り返りということでしたけれども、これから多文化の課題がどんどん入ってくると思いますので、これからの施策にぜひ反映していただければなと思います。

ほかに、よろしいでしょうか。ご意見のほうは。

それではご意見がないようですので、意見交換については終了させていただきます。

進行のほうは、部会長にお返しいたします。

○岩井部会長

それでは意見も出尽くしましたので、清水委員、どうもありがとうございました。

それでは事務局から連絡事項がありましたら、お願いします。

○橋本企画総務課長

皆様、活発なご議論ありがとうございました。委員の皆様、大変お疲れでございました。本日いただきました意見につきましては、6月21日の開催を予定しております全体会で部会としてご報告をいただくことで、他の部会の委員の皆様にも共有をしていただきます。報告内容につきましては事務局でひとまず整理をさせていただきますので、部会長、学識委員と調整をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

また一つ、ここでお知らせがございますが、区政会議に関する本市の条例によりまして、本年の9月末をもちまして、委員の皆様の2年の任期が満了いたします。現行の制度上、現在1期目の委員の皆様

については2期目として引き続き選定できることとなっております。次の区政会議の部会につきましては、10月以降での開催予定となっておりますので、本部会のメンバー構成としての会議は本日で終了となります。区政会議委員の開催についての詳細は次の6月21日の全体会にてお知らせをいたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

○岩井部会長

ありがとうございました。

それでは本日の会議を踏まえまして、山口区長から一言お願いします。

○山口生野区長

皆さん、活発な意見交換、ありがとうございました。特に学校再編につきましては、情報がなかなか届かないということを私たちも課題意識を持っています。出前講座でありましたり、メールでのご相談、区役所に来てのご相談というのも受け付けております。実際利用していただいている方もいらっしゃいます。また、お願いしたいんですけども、やはり地域に行って、そしてまたPTAの会合にも行って、私たちの口から直接不安なところについて、いろいろご説明も差し上げたいと思っていますので、そういった場をつくることに関しまして、ご協力をいただければと強く思っておりますので、よろしくお願いいたします。また子育てしやすいまちということで、いろいろなイベントが活発になってきたということでご意見ありがとうございました。実はこれに関してだけ、一つ今後の方向性というかどうなるかわからないところをちょっとお話しさせてください。実を言いますと生野区、やはり24区の中で大変虐待でありますとか、しんどい家庭の子どもというのは多くあります。毎月虐待のリスクがある子どもたちのリストがあるんですけども、そういったものを見ておりますと、私たち一生懸命子育て支援室も、そして、時には民生児童委員の皆さんにもお願いをし、学校にもお願いをし、こどもサポートネットという新しい仕組みも使いながら、何とか家庭にいろいろな情報を届けたり、支援をつなげたり、子どもたちを何とか学校に連れていきたいという思いもありながら動いてはいるところなんですけど、とにかく数が多く、特に学校に通っている子ども、そして保育園にいる子ども、幼稚園いる子どもは所属があるという言い方をするんですけども、とにかく通ってくればまず見ることができるんですけども、乳幼児で所属がない子どもでありましたりとか、あと学校になかなか行けていない子どもさんというところに対してのアプローチというんですけども、こちらから出かけて行って、何とか支援につながるというところの今マンパワー不足というところが大きな課題になっています。イベントとかもどんどんやりたい思いもあるんですけども、そちらの命であったり子ど

もが人権を守られた状態で暮らしていない子どもがいるという事実の中で、生野区として今後どうしていこうかというところは、また皆さんのお力を借りたりご協力をお願いしながら、どちらもできたらいいなと思ってはいるんですけれども、何とかしていききたいなと思っています。

皆さんにお願いしたいことは、やはり地域で全てのいろいろな子どもに、少し愛想の悪い子とかもいるかもしれないですけれども、にっこり笑っておはようと言ってあげてほしいんです。挨拶というのは、あなたの存在を認めていますよということ。そして笑顔で接することは、あなたに会えてうれしいというメッセージで、実はそれがあるだけで頑張っているとか、自分はこの人を喜ばせていると思えるんですよね。自分が生きていくということに対しての価値を感じられるので、ささいなことに思うかもしれないですが、この話はぜひ地域とか周りの方にも、していただけたらなと思っています。

本当にいろいろなご意見ありがとうございました。また引き続き区役所も頑張っていますし、学校にもいろいろな今日のご意見の中で伝えなければいけないものを伝えていきますので、ご協力よろしくお願ひします。

本日はありがとうございました。

○岩井部会長

ありがとうございました。せめて笑顔でいきましょうということで、今日の話はいい話やったわ。

区政会議は生野区の将来について区民同士が率直に情報交換をしたり意見を語りあえる場所です。また6月21日金曜日には第1回全体会議の開催が予定されておりますので、今後も活発なご意見をよろしくお願ひいたします。

それでは、これで本日のこどもの未来部会は終了いたします。

このメンバーでの部会は本日で終了するということです。皆様方、今日はどうもありがとうございました。お疲れさまでした。